

□私の交友録／若き日の画家と作家達／3V

佐伯祐三と春画

伊藤慶之助

△画家・春陽会会員▽

私は関東大震災で関西に来て、フランスに出発までの三年間を阪神沿線杭瀬に住んでいた。杭瀬は今のようない工場地帯でなく、農業用水路にかこまれた植木屋の花畑などが点在する静かな村で、私の家も植木屋のバラ畑の中のわらぶきの離れ屋であった。

その頃、竹中郁、福原清、山村順などの詩人が、神戸から「羅針」という詩の雑誌を出していて、私もこの家で時々「羅針」の表紙画を描いたなつかしい思い出がある。

佐伯祐三は昭和二年一月、滞仏途中で金が無くなって突然日本に帰って来た。東京、大阪を幾度も往復したり、大阪の市岡に嫁している姉、杉邸文栄の家にも度々



竹中郁、福原清、山村順らが出版していた詩雑誌「羅針」。表紙絵は筆者（昭和2年頃）

足を運んだ。佐伯の数点の滞船の絵は、その間、杉邸家の近くの木津川口に舫っているマストの船を描いた。しかしどうも思うように金が集まらないので、段々気持ちにあせりが出て来て、度々私の家にやって来た。

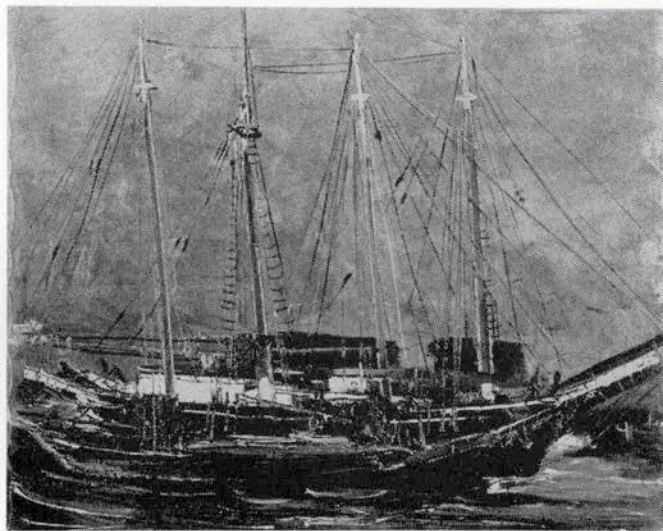
杭瀬の次の駅の大物の近くに坂本勝の家があったので二人で電車の線路に添って大物まで歩き、阪本病院の南側の出入口から阪本の室に入って三人で顔をおしつけて相談した。結局、佐伯は現在集まっている金をおぎなう為に、浮世絵の春画を大量に持って行って、パリでフランスに換えようと考えた。

幸に私のアトリエに遊びに来る小林三郷という石版画工あがりの画商がいて、福井、金沢辺りを旅して、地方の素封家から浮世絵を高価に買い取り、それをおとりに明治初期の洋画や南蛮絵をかうのが仕事である。現在、神戸市立美術館になっている池永南蛮美術館の有名な藏品「シーボルトの家族」の衡立絵はこの小林が金沢で手に入れてきたものである。

彼はくしゃくしゃした顔で、ちよびひげをはやし、ゲテ趣味の相貌の持主だが、酒好きで人がよくてねばり強いので頼むとかならず集めてくる。彼は十日間ほどで大型トランクに一ぱいの浮世絵春画を集めてきた。私と佐伯は福島の浦江聖天のドブ河と汽車の線路に添った彼の家に行き、集まった大量の春画本を整理して中津の兄の家光徳寺に届けてもらう約束をした。

その中に明治初期の浮世絵師、月岡雪鼎の三冊本で、四季の野外の風景の中で、男女のいとなみを巧みになまめかしく描いたものがあって、佐伯はこれだけは好きだから僕が持つて帰るとポケットに入れた。

阪神福島駅から電車に乗って、私は杭瀬に帰り、佐伯は野田駅で北大阪線に乗り換え、中津駅で下車する。



佐伯祐三「滞船」一九二六年頃

佐伯は目的の浮世絵も手に入り、パリ行のめどもついたので、のんびりと野田駅に下りたが、駅は何となく騒然とした空気で、腰にサーベルをつった巡査の外に特高らしい私服の姿もちらほらする。秩父の宮が甲子園球場に来られるので、警戒網をはっているところであった。

佐伯はポケットに気をとられないようにげんげふり

をして、北大阪線の電車の方向に歩いたが、目のするどい二人の男がつけてきて肩と腰に手を掛けた。君は無政府主義者だろう。ごまかしても解つちよる……といったながらポケットに手を入れてきた。佐伯は、しまったと思つたがもうおそい。三冊の春画本がそこから出て来た。そうか……こいつ……こんなことをしちよるのか、といながら野田警察に連行された。

取調室で特高係長が出て来て警察の合言葉のようなもので話しかけてくるが、さっぱり解らない。私は無政府主義者ではない。佐伯祐三という画家だといったが、それがなぜポケットに春画を入れているのか。アナーキストの運動資金にするのだろうか。いやこれは友人の伊藤慶之助に参考の為に借りたのだとおし間答を続けたのだが、署長がアマチュアで油絵を描くというので署長室に廻された。

署長は上品な言葉で、私は油絵を描くので今年の二科展で評判になった佐伯祐三のパリの街の絵を見たが、この赤いトックリシャツを着たコール天ズボンの、ポケットにこっそり春画をしのばせている男が、フランス帰りの佐伯祐三画伯だとはどうしても考えられない。君は偽者だろうということになり、この男に春画を貸したという伊藤という男を署に呼んで、面とうしをさせようというので刑事が杭瀬の私の家に来て来た。

私はびっくりして刑事について野田警察に行くと、署長室の椅子に春画を前に置いて佐伯は悄然と座つていた。

私の証言で本物の佐伯祐三と解つたが、春画を公然と人に貸した事、それを白昼持ち歩いた事というので佐伯も私も始末書を書かされ、月岡雪鼎は没収され暮れかかった落暗い野田警察の門を二人で出て来た。

数日後、光徳寺の暗い物置で佐伯と私は三個のトランクの布をはがし、春画本をならべてその上にていねいに布を張つてパリに持つて行った。

スマート校長

高木 正雄

△神戸商科大学学長▽

「スマートなジュエントルマンライクな人間を養成するのが私の念願である」

これは初代校長伊藤眞雄が開校式兼第一回入学式において放った第一声である。伊藤校長は、機会ある毎に学生に向って「諸君 すべからくスマートなれ！」と口癖のように言ったものだ。当時誰が作ったかわからないが高商数え歌の冒頭に次のような名句があるが、言い得て妙である。

一つとせ 他人の心も知らないで

スマート校長の長談義

校長の講話には必ず「スマート」という言葉が



スマート校長といわれた伊藤眞雄初代校長

何回か出たし、その話はいつも長い方であった。

またこの歌の通り伊藤校長こそ正にスマートで堂々たる紳士の典型ともいうべき人であった。先生は、やや小柄ながら容姿端麗、笑をたたえた温顔に光り輝く澄んだ眼差、巧まらずして威厳と気品を備え、容易には近づき難いが何となく親しみを覚える慈父のような風格があった。若い頃は勝気でやや短気・才気喚発・明朗快活な好紳士だったそうであるが、神戸高商校長の頃は、すでに五十の坂を越えていて学徳ともに高く円熟した教育家として一種の魅力を備えていた。沈着冷静、熟慮黙考、周到な計画とたゆまぬ実行力を以て、先生は初代校長として昭和四年春から十二年秋まで八年余の間、全精力を傾倒して創業の難事業を首尾よく成しとげて校基を確立し、更に進んで校運の隆昌発展のために挺身しつづあったが、業半ばにして病を得、突如として世を去ったのである。時に齢未だ六十に達していなかった。昭和十二年十月八日臨終に際して「自分は子弟の教育のためには成すべきことは成したので、いささかも心残りはない」と家人に語った。げに真の教育家らしい最期ではないか。

先生は明治十一年新潟県新発田町の素封家に生まれ、新潟尋常中学第四高等学校を経て三十七年京都帝国大学法科大学を卒業、翌三十八年大阪市立高等商業学校教授に迎えられ、同校昇格と共に大学教授に任じられた。その間常に同校における枢要の地位にあって学校経営の職責を経験し、学識、人徳ともに優れた教育家として周知知られていた。昭和四年本校の創立に当って先生こそ初代校長に最も適任であるとして内外の尊敬を受け、また大きな期待を以て迎えられたのであった。

さて「スマートな青年紳士の養成」は伊藤校長の教育方針を端的に表現したものであるが、それは先生が次のように考えてのことであつたと想像する。すなわち、開港都市神戸に臨む本校の卒業生は、その多くが将来世界を股にかけて雄飛するであろうが、その際彼等が欧米先進国の人士に互して少しも遜色なく堂々と応待しうるように育て上げておかねばならない。それがためには、学生をして単に商業や経済に関する専門的知識の修得や外国語をマスターするだけで満足することなく、更に進んで趣味の向上、品性の陶冶に努め、信義礼節をわきまえた健康で好感^{スマイル・エンカウンター}のもてる紳士に仕立て上げておかねばならない。このスマートという語は、軽快でそつけないというだけでなく、心身ともに健康で好感がもてるといった意味を含んでいる。また紳士たる者は信義礼節はもとよりどこことなく洗練された品格を備えていなければならぬ。このような頼もしい青年紳士を多数輩出することに先生はこの上ない情熱を燃やし、その豊富な学識と経験を生かして卓拔せる創意と不屈の精神力を以て粉骨砕心したのである。そこで履

修科目の編成に当たっても、徒らに理論に偏せず実学を重んじ、応用の利く実際に間に合う人間の育成に主眼がおかれていた。その上第三学年に進むとゼミナールがあつて、一人の教授に十名内外の学生が所属し、学生自らが積極的に研究を進めその成果を卒業論文にまとめて提出するようになっていた。これらの制度は先生が若き頃英独に留学して得た経験にもとづくかと思う。すなわち実学を重視するところはイギリス的であり、ゼミナール制の採用はドイツの大学に倣つたのであろう。

伊藤校長がスマートで元氣瀟灑とした青年紳士の養成に大いに心を砕いたことは当時の「生徒心得」に最もよく表われている。その第一条には、「学業に励み智徳を磨き人格の陶冶に努めよ」とか「体力を練り節制を守り心身の強健を図れ」また「礼節を重んじ信義を敦^{あつ}うし举止端正なれ」とうたい、第二条には「読書及び娯楽は常にその選択に注意し智徳又は趣味の向上に資し品性の修養に益するよう心掛けよ」といった具合である。このように現今の学生にはとても想像もできないようなことがその頃の学生には要請されていたのである。

伊藤校長の教育理念には、いわば智育・徳育・体育の三位一体の考えが流れていて、先生は智・徳・体のバランスのとれた有為の人材「スマートジェントルマン」を養成することを念願としたのである。

このスマート校長によってつちかわれたスクールカラーは、その後半世紀を経た今日もなお連綿として生きつづけている。



東京

池袋バルコ店

(四階きもの小路)

東京都豊島区南池袋一丁目二八

電話 〇三九八七〇五六一(直)

日本橋東急店

(四階和装名家街)

東京都中央区日本橋通一丁目九

電話 〇三二二一〇五一(代)

渋谷東急店

(五階和装名家街)

東京都渋谷区道玄坂二丁目二四

電話 〇三四七七三四〇九(直)

銀座コア店

(四階きものコア)

東京都中央区銀座五丁目八二〇

電話 〇三五七三二五二九八(代)

神戸

本 部

神戸市東灘区青木五丁目一五

電話 〇七八四二一五二九〇(代)

本 部

市街地改道により工事中 昭和五十二年未定

電話 〇七八三三三二一七〇〇

さんちか店

神戸市生田区三宮町一丁目一

電話 〇七八三三三二一七〇〇

きもの細貨

おんがら屋

MAKE UP WITH ROYAL

いつの日も
ゆたかな女性でありたい
さりげないおしゃれな心を
いつも眼もとに
とどめているような……



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

元町店は毎水曜日がお休みです
三宮店は第2、3水曜日がお休みです。

フロンガス

諸岡 博熊

〈神戸市企画局参事〉

へアスプレーなどエアゾール製品や冷蔵庫、クーラーの熱媒体として使用されているフロンガスはフッ素、炭素が化合してできた不活性ガスである。

このガスの大量使用は、成層圏中のオゾン層を破壊し、その結果人間の皮膚ガン多発を招き、さらに、食糧生産の減少、リボ核酸(DNA)破壊による動植物の生態系の変化の原因となっているといわれる。

なぜなら、フロンガスは太陽の紫外線で壊れ、ガス分解の結果生じる塩素がオゾンを破壊し、成層圏の化学的な安定状態のコントロールを奪い、地球上の生態系を乱すからである。

なお、これまでに成層圏では、オゾン層の1%が破壊されており、このままでは、紀元二千年来までは3%に達することが確実といわれ、このオゾン層の2%減は、年間一万二千件の皮膚ガン

発生が予想されるといわれる。

このため、アメリカの食品薬品庁(FDA)、環境保護庁(EPA)、消費者安全委員会(CPSC)は、合同で、昭和五十二年五月に規制措置をとった。

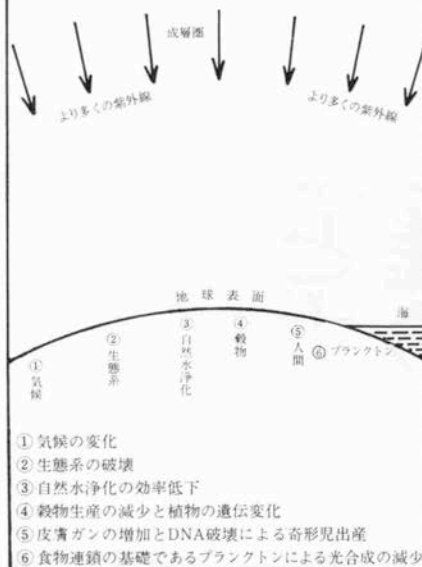
それは、①フロンガスの製造を昭和五十三年十月十五日以降禁止する。②昭和五十三年十二月十五日以降、フロン使用禁止。③昭和五十四年四月十五日以降、フロンを使用したエアゾール製品の取引禁止。④すでに製造された在庫品については、昭和五十四年四月十五日以降売ってもよいが、昭和五十三年十月十五日以降、紙巻きタバコと同様「その使用は危険だ」という警告文をつけなければならぬ。⑤なお、規制対象は、エアゾール用だけであるが、冷蔵庫などに使用されている冷媒用は

来年度に規制措置がとられる予定。

これに対し、わが国の対策は、スプレーなどに含まれるフロン中のオゾン層破壊より、むしろ大型ジェット機による被害の方が大きいのではないかとされ、アメリカのような規制措置がとられていない。ただし、昭和四十九年六月、厚生省は、発ガン性は確実とみられるので、それを含んだスプレー商品の使用は好ましくないとし、塩ビモーターを噴射剤としたスプレー式殺虫剤の販売停止と回収を命じたことがある。ただし、このときは、スプレー中に含まれるフロンは問題とされなかった。皮膚ガンの多発を招くフロンガス使用について、長期的な視野にたつた総合的な環境管理が必要とされる。

オゾン破壊のもたらす影響

(オゾン層の減衰は、より多くの紫外線が地表に到達し被害を及ぼす。)





既成市街地の整備とポーアイ建設を平行して進める

宮岡 寿雄

〈神戸市経済局長
特別委員会産業分科委員長〉

嘉納 正治

〈白鶴酒造社長
神戸商工会議所副会頭・特別委員会委員長〉

永田良一郎

〈永田良介商店社長
特別委員会副委員長〉

鬼塚喜八郎

〈アシックス社長
特別委員会副委員長〉

菊水 啓輔

〈菊水総本店社長
特別委員会街並分科委員長〉

長田 隆造

〈神戸商工会議所商工振興部長〉

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、
“神戸らしさ”の文化の発掘であった。文化を即生
活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこ
そ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに彩
り、楽しくしていくことは、まさに“文化開発”そ
のものではなからうか。

“ファッション都市・神戸”はそのような環境の
なかで息づいている。

そこで、ファッション都市・神戸の本質的な理解
——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを
繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

さて今回は神戸商工会議所のなかに設置されてい
る「ファッション都市づくり特別委員会」のメンバ
ーの方々によって、商工会議所としてのファッショ
ン都市づくりへの取り組みを語る内容である。

★ファッション都市づくりに全産業の参加を

嘉納 ファッションは生活文化ということですから、フ
ァッション都市づくりとは即ち生活文化都市づくりだと
いうことですね。

昨年の十一月に外島会頭になりましてから、もうファ
ッションを議論する時代は終わった、実践の時代だとい
うことで、それまでのファッション都市問題研究会を特別
委員会にして貰おうということになりました、町並みを
つくり、かつ、人づくりをやり、いかにファッショナブ
ルに経済性を上げて行くかということで、街並分科会、
企画分科会、産業分科会の三つを設け、目下、着々と活
動しております。

町並みの方は神戸市のマスタープランにありますよう
にいわゆるファッション・ロードを花時計から元町を経

て神戸駅までをヨコの軸に、タテの軸はトアロードからメリケン波止場までという構想で進めているわけです。その間に、トアロードを含めて北野界隈のいわゆる神戸らしさのあるあの地区をいかに展開して行くかという問題も出て来ています。

次にポートアイランドの整備につきましては、これはプロジェクトが大きくなりますので、ホテルの建設、あるいは、国際会議場、あるいは、見本市会場、その他、色々のものが計画されていますが、ポートアイランドは確かに神戸のものではありますが、もっと広い意味で日本のポートアイランドであり、かつまた、世界のポートアイランドであるという意識にまでもって行かないといけない。京阪神はもろんのこと、中京、東京、西は広島、福岡という方面からもこれをいかに育てて行くかについて前向きな御協力をいただくと共に、国内のみならず外国からも目を向けて貰い、企業なりが進出して貰うことが必要だと思えます。

京阪神三都市それぞれにファッション問題があります。大阪は繊維そのものの地盤沈下をいかに浮上させるかが問題で、京都は新しいファンデーションと伝統の西陣なり友禅をいかに組み合わせるかという問題。これもどちらかといいますと繊維が中心です。神戸は単にアパレル、あるいはインテリア、ケミカル、洋菓子ということではなくて、ファッショナブルな都市づくりを目指していますから、重工業ももちろん、全産業が参加していただく、という構想でやって行くことに確信をもっておりまして、その点は外島会頭にも納得していただいております。

長田 ファッション都市づくりの発端からいいますと、最初は昭和四十八年一月に砂野前会頭が新年の合同祝賀会でファッション都市づくりを提唱されました。それからその年の十月に神戸市がファッション市民大学を開講され、それに応じて、神戸市、神戸商工会議所、神戸新聞社の三者によるファッション・フェアが神戸文化ホール

で開催された。これは将来定着させるものとしてスタートしたわけです。それ以後、KFCとかKFKとか色んなファッション関係の業界の組織化が進んで来ました。五十年六月にヨーロッパへ都市調査団を派遣しましたが嘉納委員長が団長で十七名が行きました。それから、ファッション都市問題研究会を発足させまして、九回にわたって色々とディスカッションをして来たわけですが、そこで一番強調されたことは、つまり、ファッション都市の理念についての市民なり行政あるいは産業界のコンセンサスを得ることがまず第一である。同時にそれに対してポリシーが必要だということですね。それに伴うファッションセンターの設立だとかあるいはポートアイランドのファッション街区の基本計画ということについて行政サイドでも研究会をつくり、マスタープランをつくった。そういうことで段々とファッション都市づくりの土壌は出来つつあったのですが、まだまだムードが先行し実体が伴わない時期が過ぎて行き、本格的には五十一年の後半位から業界側も相当関心を持つようになりまして機が熟して来た。これからは実行の時代だと考えております。

永田 ファッション都市づくりという場合、委員長がおっしゃったように生活文化都市づくりということでおし進めているわけで、つまり、衣・食・住全部を含めてファッションという考えでやっているわけです。狭義に解釈されやすいですが広い意味で使っています。

ポートアイランドの問題と平行して、既成市街地にファッション都市というか生活文化都市にふさわしいブルームナードをつくるべきじゃないかという提唱をしております。神戸の雰囲気によくマッチしたブルームナードをどこかに設定する。神戸の特徴はどういうことかというところとバタ臭さとかいうこともあります。やはり、ゆったりとして落ち着いたショッピングが出来る町ですから、のんびりと歩けるようなシンボル・ロードを設置したという事です。花時計から新開地までというのが商工会



嘉納 正治さん



宮岡 寿雄さん

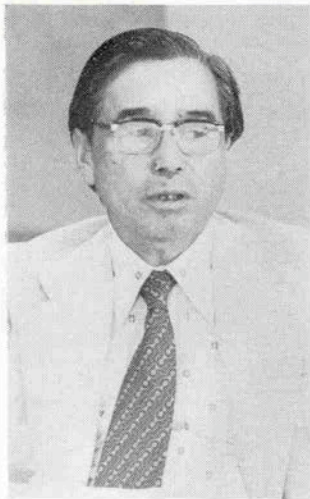
議所の提案ですが、市の方と話をしておりますのはもう少し狭い範囲で三宮、元町近辺で、市のいい方ではゾーン・システムということですが、これに対しては地元のお店街なりが協力すべきですね。たとえば、私が前からいっているように閉店後もウインドーショッピングが出来るようにしたいし、それぞれの店がウインドー・ディスプレイや店構えに個性を出して欲しいですね。街灯一つにも神経の行き届いた配慮が欲しいですね。

菊水 神戸市のファッション都市づくりは一部のインテリとか特殊な産業経営者のものであってはいけません。全市民運動でなければいけないのじゃないか。また、全市民のコンセンサスを得るようなものでなければ対外的に神戸市がファッション都市であると訴えることは出来ないのではないかと、こう考えています。ファッション都市は見せる町なのか、つくる町なのか、売る町なのかということですが、私は売り、見せる町でなければい

のじゃないかと思えます。見せるということならやはり背景がなければいけない。その背景としては港があり海があり山がありという全国的、世界的に見てもファッション都市として訴求する自然環境が神戸にはある。それをさらにファッション都市として見せるにふさわしい、着るにふさわしい、歩くにふさわしい町にしたいとい

けない。
それではファッショナブルな町とはどういう町かということですが、たとえば、異人館を町並みのシンボルにしようという考えもありますが、これだけではなく、モダンなもの、超モダンなもの、アップトウデイトなものであっても良いと思いますが、何らかの形で着せ、見せ、歩ける町にしたいといけません。

鬼塚 産業を通じてどのようにファッション都市づくりへの構想を築いて行くかという問題ですが、エキスパートを養成して行かないと上っ面をなでたことのみに走ってしまうのではないかと考えまして、いわゆるファッション・ビジネス・スクールというものを開講して、そこで専門家を養成することが最も近道ではなからうかと、こういう結論に到達したわけですが、さらにもう一つは神戸のいわゆる生活文化産業といわれるアパレル産業だとか、装身具の産業だとか、あるいはケミカルの産業だとか、洋菓子とかお酒、室内インテリア、家具など色々あるわけですが、こうした個々の産業がこれまではあまり関連性を持たないで、それぞれ独自で活動をしていたのではないかと思うのですが、神戸の産業構造を見直したときに、これまでの造船、鉄鋼、それに関連する企業という大型産業が中心を占めていたわけですね。ところが不況になってしまおうとそれらは殆んど不況型産業になってしまって、どうしても神戸の産業構造そのものを鉄鋼造船に依存しない、いわゆる地場産業というものをここで大きくアピールして行かないといけないのではないだろうか。そういうことを考えて行くと、やはりここにファッション産業が出て来るわけです。こういうもの



鬼塚 喜八郎さん

を総合的に育成して行かなければいけない。
人づくりと地場産業を総合的に育成して行くというこの二つの問題が産業分科会で取り上げられて来たわけなんです。したがって、この二つの観点の中から早速十月一日に「神戸・ファッション・ビジネス・スクール・マネージメント・コース」を開講致しまして、第一回はアパレルの分野をとり上げて、そこで基本的な、専門的な人材を育成して行くのではないかと、そのへんまで現在来ています。ただ、これが、ファッション市民大学とどう関連を持たせて行くかということが一つの重要な問題なんです。ビジネス・スクールは企業のトップクラスの人を対象にして神戸のファッション産業を今後どう展開して行くかというかなり専門的なことをケーススタディなんかを使って、統一した思想の下に教育して行くことになると思います。ですからファッション市民大学とは自づから趣向の違ったものになります。



永田 良一郎さん

★ポर्टアイランドにファッション大学設置の実現を

宮岡 四十八年にファッション都市づくりが提唱されたといううらにはやはり時代的な背景があったと思いますね。例のオイルショックであり、その前からかなり公害問題ということで大都市には大きな産業がこれ以上発展する余地がないと、特に神戸の場合は港を背景とする鉄鋼とか造船が中心だったのですが、これ以上は神戸で発展する余地がないということになって来たわけです。従来から大都市においてはこれからは産業を知識集約化すべきであると指摘され、また提唱されているわけですが知識集約化も仲々難しい面がありまして、神戸では全産業をファッション化する方向をとって来たわけです。

これまでの四年間はファッション化が提唱されて、それについての人材育成とか、あるいは、ファッション・フェアとか商業的な行事を中心にしてやって来たわけです。町並みづくりということで、単に産業を育てるだけじゃなしに、その基盤を整備することは大変良いことだと思いますね。神戸は緑化推進をやっておりますが、それはファッション都市の基盤をつくるのだという前提に立っているわけです。町並みづくりはファッションに市をつくるためには非常に良いことだと思います。ただ、たとえば、港とかボーアイとか、基盤になるものは行政がつくるのですが、そこでの活動はあくまで民間で、商工会議所なり、民間経済団体を中心とした民間の活力がないと、役所が幾ら提唱しても限界がありますので、私もとしては町並みづくりとか、経済基盤が成り立つ上での基礎的な整備をやり、それによって民間の活力を大いに引き出すということを考えています。

今までは提唱の時期だったのですが、これからは実践の段階で、全部が前へ進めば良いのですが、ある程度、活力の相異によってどこかが重心になりながら前へ進むという時代だと思います。

先ほどのファッション・ビジネス・スクールとファッ



菊水 啓輔さん

シヨン市民大学との問題ですが、私どもの方は一般的な人材の育成ということで、本来、スタートのときは市民にファッシヨン意識を覚えさせるということでしたけれど、受講者はどちらかといいますとアパレル産業とかファッシヨン産業に属する一般的なスタッフの方々が広く受講なさって、仕事の巾をつけるということでした。商工会議所の方はトップレベルの方々、あるいは、トップレベルになる可能性のある方々を育てるということでグレイドが若干違いますね。

私どもは前からポータイにファッシヨン大学をもって来たいと考えているのですが、大阪、京都それぞれにもその意向があるわけですね。ただ、関西がファッシヨン都市を目指す裏には、関西の地盤沈下をファッシヨン化でもってかさ上げをしたいという願いがあると思いますね。今、三者三様に自分のところへ誘致を希望しているわけですが、第一段階としてまず関西にファッシヨン大



長田 隆造さん

学を設置させるということで三者が一体化する必要があるのじゃないか。それが決ってからどこへということになって良いのじゃないかと思いますね。もちろん我々としてはぜひとも神戸へ来て欲しいのですが、将来はそういう体系立った人材養成機関を何らかの形でつくる。その暫定的なものとして私どもがやったり商工会議所がやったりで、お互いがそれぞれ可能な範囲でやれば良いのじゃないかと思いますが、最終的にはファッシヨン大学という人材養成機関を神戸につくるのが本筋だと思います。

嘉納 ところが、京阪神三商工会議所ファッシヨン産業振興懇談会に出席してみると、勝手に決めているんですね。見本市会場は繊維の中心として大阪が最適だ、ファッシヨン大学はやはり文教の都である京都がすべての面から見て一番適している。そうすると神戸は一体何をやるのかということになる。せっかくポータイランドが出来ているのですから、大阪だ、京都だ、神戸だという感覚でなくて、ポータイランドをいかに利用するかをみなさんも考えて下さいといったのですよ。京阪神の地盤沈下をファッシヨン都市化によって盛り上げるための核とすることですね。神戸だけでやるという感覚では難しいのじゃないかと思えますね。関西はもちろん、日本のポータイランドですよという考えを持って、これを開発し利用運営して行くのが良いのじゃないかと思えますね。

永田 ポータイランドは神戸だけのものじゃないし、京阪神のものであるし、しいては日本のものであるという考えを持たないと、神戸だけのものだというセクシヨナリズムとか地域エゴを出して行くとかダメであって神戸にたまたまそういう適地があるので提供するのだという見地からぜひ成功させるようにもって行かなければいけませんね。

また、新交通システムもそういう観点からいうと、三宮駅だけとつなぐというのは中途半端ですね。ぜひとも

新神戸駅まで欲しいですね。一つは三宮駅、これは近郊のエリアだけを考えた場合で通勤には便利ですが、メッセとかを考えますと、もう一つ新神戸とつなぐ線を平行してつくるべきですね。日本的な規模、国際的な規模で考えますと三宮駅からだけというのは不十分ですね。もっとマクロ的な見方をしないといけないですね。

また、ファッション大学は魅力あるものにならないといけないし、これは神戸だけの力だけでは出来ないですからやはり京阪神の力の結集として考えないといけないですね。それで、ここを出た人が東京とかに行ってしまうとどうしようもないので、神戸に定着させるために神戸で職場を与えるようにすることですね。その位の意気込みでやらないといけないと思いますね。

鬼塚 ポートアイランドは京阪神の「目玉」だということに大きなポイントをおかないといけませんね。ただ、ファッション大学だけをボンと取り出して云々してはダメですよ。

嘉納 ファッション大学をおいてしかるべき背景が出来なければポートアイランドに持って来ても仕方がないですね。それと、神戸の産業は鉄鋼、造船が中心になって来たのですが、問屋がないわけですね。問屋をいかにしてポートアイランドへ引っ張って来るかという問題。神戸では今までに問屋が育ってないですね。問屋無用論もありますけれど私は必要だと思えますね。

鬼塚 そうですね。生活産業には問屋の占める位置は大きいですよ。

★ポートアイランドは二十一世紀神戸の「目玉」

宮岡 昔は港に人とか情報、ものが全部集って来たんですが、今は鉄道が出来、航空路が発達し、情報機能も電話とかテレックスでスピードアップされ、港は単にものが動くだけのものになりましたね。卸機能は情報が切り離せないで神戸には育たなくなっただけですね。ボーアイにどうして情報を集めるかとなりますと、ファッショ

ン化して人が集まるようにする。人が集まれば情報が集まりますからね。

嘉納 いかにして知識集約化し、情報を蒐集するかどうかとは非常に難しいと思いますね。それとポートアイランドを別の観点から見ることがありますね。既存の町並みをファッション・ロード化、生活文化都市化をしてそういう町並みがあって初めてポートアイランドという新しい土地が生まれてくるということですね。

鬼塚 別の「目玉」をつくらないといけないですね。従来のものは従来のもので大いに反省し育成しないといけない。

菊水 完全に両立しながらやって行くことですね。知識集約型産業とか、ボーアイにファッション大学をつくるとか、問屋機能を考えるところと同時並行に、神戸の町は誰が見ても一味違ったファッショナブルな町で、ファッショナブルなものを売り、市民自身がファッショナブルな町に対するコンセンサスを持っているという町にして行くことがなければダメですね。

長田 ただ、そういうなかで神戸を観光都市と割り切つて、消費都市で良いのじゃないかということになると危険だと思えますね。神戸の地場産業をファッション化することは重要だと思いますが、ただ、神戸の生産所得とか分配所得を県下で見ますと二次産業の比率が大阪や京都より高いわけですね。まだまだ二次産業のウェイトが大きい。二次産業は大体重化学工業ですね。重化学工業も一団となってファッション化に取り組むということは観念的には分るんですけど、それでは現実はどうして行くのかということで重化学工業にはまだ異和感があると思いますね。ファッション都市づくりにどういう対応の仕方をすれば良いのかと。知識集約化というけれどそのために本当に必死になってやっている。特に先端部分はそうして付加価値を高めて行かないといけない。これは企業の宿命だからやっているが、行政としてそのための政策手段を出して欲しいという声もあるわけですね。

重工業をどうファッショ都市づくりのなかで位置づけるのか、このへんが残された大きな問題だと思います。

永田 神戸の産業はすべてファッショ都市づくりに向いてくれないと困るわけですね。個々の商店も努力するけれど、市なり、ハードな産業も挙げて協力する態勢をつくって行かないことにはダメですね。神戸を支えている大企業も何らかの形で協力することがファッショ都市づくりを成功させる大きなポイントだと思います。

たとえば、アーケードをつくるときに神戸製鋼や川崎重工などから、こういう材料があるとか、デザインのこうすれば強度が強くなるとか、そういうことでの協力のやり方は幾らでもありますね。地元のそういう要望に対して目を向けるということですね。それがりっぱなものであれば、全国的にもそれが広がって行くと思いますね。そういう協力の仕方は何も難しくありませんよ。

宮岡 従来神戸では工場緑化の義務づけをやっているわけです。ですから製品をファッショ化するということは今の重化学工業とは仲々結びつかないのですが、少なくとも街並みづくりでの工場のあり方とか、そういうことでは大いにファッショ化を意識する必要があると思いますね。

嘉納 八月二十四日から九月五日までアメリカへ経済視察団として行くわけですが、これは、ファッショ視察団のようになっており、巡ります都市もニューヨーク、ダラス、ヒューストン、ロス、サンフランシスコだけでニューヨークではFIT（ファッショ工科大学）の見学、ダラスでは新交通システムの視察などが予定されています。

宮岡 ポーアイの利用計画はある程度出来ているのですが、これから民間の企業がどういう風に進出されるかというところもありますが、基盤はホテルだとか見本市ということです。これからは国際会議場がぜひ必要だということですね。いずれにせよ五十六年四月には新交通システムも含めましてとにかくポーアイを本格的に可動し

たいということをやっているわけです。ポーアイ、それに続く六甲アイランドは神戸の大きな基盤ですが、それはあくまで三宮を中心とする商業地域、あるいは従来からある産業と一体となって神戸の基盤を高めるということでないと、それだけボツンとあるのは具合が悪いですね。これまで百年かかった既存の市街地の蓄積の上にそれがプラスされて、さらに国際港都として発展し、かつファッショ性を高める色彩の施設がそこに集まるということであって欲しいです。

長田 そろそろ神戸のファッショ都市づくりを総合的に誘導する組織が出来ても良いのじゃないか。行政側にも業界指導という声が強くなって来ているので民間でそういう組織をつくるが必要だと痛感しますね。

鬼塚 確かに必要な時期になって来ましたね。

宮岡 行政対産業という問題は難しいのですが、大阪と比べて神戸は行政主導型だといわれるのですが、一つは神戸と大阪の経済力が違うからですね。神戸には行政がやらざるを得ない面があるんでしょうね。

鬼塚 大阪は商社が力を持っていますからね。

菊水 ところで、神戸商工会議所百年の記念の一つとして会議所が神戸のファッショ都市づくりにこういうようなあり方を望むのだという提言をまとめたんですね。嘉納 市と会議所が一体となってプロモートして行くことが大切だということですね。

ポーアイランドはせっかくこれだけのものをつくったのですから、これを生かして神戸市にプラスになるようなものにしたというのが我々市民の熱願ですね。

鬼塚 二十一世紀の日本の「目玉」ですからね。

永田 一方にはポーアイランドが将来の問題としてあり、商工会議所もこれに対して協力して行かなければいけないし、もう一方の町づくりの問題についても具体的にやって行かないといけないということです。地元の方々の声を吸い上げて、行政とのパイプ役をするのが商工会議所の仕事だということですね。

ウシオ工業㈱

取締役社長 牛尾吉朗
神戸市葺合区浜辺通5丁目2の1
神戸商工貿易センタービル18F
TEL (078) 251-1651 (代)

田崎真珠㈱

取締役社長 田崎俊作
神戸市葺合区旗塚通6の3の10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル㈱

取締役社長 川上勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

㈱ワールド

会長 木口衛
神戸市葺合区磯辺通3丁目2の17
TEL (078) 251-5311

カネボウベルエイシー㈱

取締役社長 稲岡必三
神戸市生田区三宮町1丁目43番地
TEL (078) 392-2101

㈱ベニヤ

取締役社長 松谷富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ㈱

取締役社長 葛野友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入船㈱

取締役社長 小泉進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) プリコビル3F
TEL (078) 851-3191

神戸地下街㈱

さんちかタウン・サンこうべ
神戸市生田区三宮町1丁目1
交通センタービル8F
TEL (078) 391-4024 (代)



キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の企画は以上9社の提供によるものです。

●キャンペーン／トアロードを考える①

トアロードを神戸らしい 匂いのする活気ある町に

石阪 春生〈洋画家〉

水谷 颯介〈都市計画設計研究所所長〉

加藤 末一〈コロンバン社長
トアロード中央商店街振興組合理事長〉

辻井 豊〈日経商事社長
トアロード中央商店街振興組合副理事長〉

狩谷 敏男〈エスター・ニョトン社長
トアロード中央商店街振興組合理事〉

蛭川 松市〈リイチ産業社長
トアロード中央商店街振興組合理事〉

清水 俊夫〈クロス社長
トアロード中央商店街振興組合監事〉

飯島 明〈アサヒ商店社長〉

―先日、加藤社長からトアロードも色々
と動きが出ていよいよ新たな展開をするとい
うことをお聞きしていたのですが、今日
は地元商店の方とゲストの先生方にお集ま
りいただき、トアロードを考えるキャンペ
ンベーンの第一回に致したいと思えます。
まずこれまでの歩み。

★新たな町づくりへ意欲十分

加藤 最近の動きを申しあげます
と、昨年の十一月の初めに二年が
かりで準備いたしておりました振
興組合法に基づいた組合――トア
ロード中央商店街振興組合の総会
を神仙閣で開催し、本格的な態勢
を整える段階に達しました。これ
は歩道、街路灯、あるいは、車道
と歩道との間の構築物をつくるこ
とを主たる目的として発足した
わけです。二十三名の理事が選ば
れ今年一月に役員の初会合をしま
した。

それ以前にはトアロードショッ
ピングセンターという名前で十四
五年の間活動を続けて来ました。
さらにその前にはトアロード振興
会という組織で生田新道からNH
Kに達するトアロードの中心部の
組織として存在していたわけです
この組織の事業としては他に先掛
けて歩道を設定しそれまでまちま
ちだった屋並みを整理しました。
昭和二十七年頃です。それからほ
どなく街路灯の設定をしました
が、これは今は二、三残っている
だけです。それと地下埋式のゴミ
箱の設定。これはトアロードショ
ッピングセンターの時代です。

これからとしましては高架から
下の商店街のあり方との対称にボ
イントをおくのもその一つでしょ
うし、市や商工会議所の方でもト

アロードの問題を取り上げて貰え
る段階になって来ていますが、地
元の者だけで安直にことを済ませ
るという時代では最早ないとい
うことを最近しみじみと感じてお
ります。トアロードの昔を知って
いる方々が一つの郷愁を持ってい
て、今のあり方に多少の不満を持
っている。トアロードはこうあ
って欲しいという願望があって、
それが私共の目や耳に入ってくる。
機が熟したというか、良い世論が
盛り上っているとひしひしと感じ
ています。

さらにはトアロードの南北の一
本の在り方だけではなくて、東に
伸びた北野町、三宮駅に到る延長
コースが取り上げられる段階に
来ている。最近、シンボルロード
という言葉が聞きますがトアロー



石坂 春生さん

ドの昔の姿を復元する、あるいは保存するという視点から考えるという他に、新しくシンボルロードという観点からもトアロードを把握する必要があります。

我々のセクションについては上の方も、あるいは、北野町の方も真似ていただけるような舗装、街路灯、その他の付設物を設定しようじゃないかという打ち合わせを最近いたしました。やる以上は神戸らしいセンスを象徴するようにしたい。昔のトアロードのイメージアップだけじゃなく今日的な人をひきつける魅力あるものをつくりたいというのが現状です。

水谷 トアロードの現状はプラスとマイナスの両面がありますね。プラスの面というのは、これからやるからには質の高い本格的な



水谷 願介さん

のがやれるということが一つ。たとえば私も手伝いました元町一番街や六丁目のケースでもレンガの歩道はひとまず出来ましたが、町並みの整備ということではアーケードとか街路灯とか看板とかも統一しないといけないけれど、既にアーケードや街路灯があるので、そういうものを使いながら整備するという制約があったわけです。それに比べますとトアロードは、かなり思い切つてやれるのじゃないかということです。

これまでの神戸の町並みのデザインは建物一つにしても全国的に見てレベルが低いですね。しゃにむに町をどんどん大きくして来たけれど経済的にストックがないので余りデザインにお金がかかれなかった。無論、金をかければ良いデザインが出来るとはいえませんが、トアロードではその点本格的なものが出る可能性がある。

一方、マイナスとしては既に軒並みにベンシルビルが建つていてこれらには個々のデザインとか質があり、店とか会社が入っているのですが、そういう町を構成する要素を今後どう変えて行くのか、ということですね。

石坂 私にとつてのトアロードとはやはり郷愁のトアロードだと思いますが、今、加藤さんがおっしゃったように郷愁のトアロードを

大事にしろという声を復活したら良いトアロードになるかというところもいい切れない。だけれど自身にその願望はあるわけですね。そういう郷愁とこれからつくって行くトアロードを分けたらそこに活路が出て来ると思いますね。ただ、今のベンシルビルをつぶして、では三宮のように新しいビルを建てれば良いかというとこれは困る。コンクリートの町の中で、ユニークな町づくりが出来るということでトアロードに期待するわけです。

清水 元町やセンター街と違つてトアロードは元々アーケードがなくて自然をとり入れた街路が中心なんです。神戸のトアロードとして外人にも一つのイメージがあります。だから、これから、やはりトアロードだといわれるものをつくらなければいけない責任が我々にはある。異人館通り、北野坂、三宮などところなるシンボルロードとして考えなければいけないですね。たとえば、今の歩道は狭いのでたとえ五十センチでも広げて街路樹と街路灯をもっと豪華なものにしたい。

辻井 私は戦前のトアロードも知っておりますが、ずい分と変つて来ましたが、しかし、トアロードだけはクラシックな町であつて欲しいと思います。しかし、商売を



加藤 末一さん

する以上は人に来て貰わないと成り立ちませんので、余り博物館的な町づくりは困りますね。確かにユニークな町づくりは必要ですが、買い物客に来て貰えることが大切ですね。



辻井 豊さん

蛭川 私も辻井社長と大体同じ考えなんです、結局、新しい町づくりといましても観光的なものを目的とするのじゃなく、商売をやっている以上、まず良い商品をおいている店がないと人が集まらない。最近ではアチコチに店が出来



狩谷 敏男さん

てわざわざトアロードまで行かなくても……という雰囲気がありますね。トアロードといえば神戸の代名詞のようになっていますが、現状は、はるばる遠方から来られてもチョットがっかりするのじゃないかなあと感じています。

飯島 トアロードは勾配のある坂の町ですからビルで区切った建設は出来ないですね。段差があつて当然であり、ユニークな商品を扱う商店街、出来れば高級商店街になって貰いたいですね。それと、古さのある楽しい町、昔の良さの残った町になって欲しいですね。狩谷 トアロードをファッション都市神戸のシンボリックな町にしたいですね。商品も高級品で打ち出して行く。そうすると国外や県外の方でも神戸へ着くとまずトアロードへ一番先に来る。すでにりっぱな商店もたくさんありますがもっと増やせば良い町になりますね。

★車道は石畳、歩道はレンガ道に

水谷 さつき観光の町か商売の町かという話があったのですが、通りだけが格好がついてて中味がブアだということになった話にならないですね。外観がトアロードが持っていた町の質、良い店が並んでいるとか、良い商品があるとかという質と重ならないといけない。

い。

トアロードは役所のつくる町じゃない。自分たちが協力してつくる。そのためには良い商売が出来、良い仕事出来る町でなければならぬ。さらに、小さな御屋があつて良いし、小さいけれど個性的な企業、あるいは、アトリエや工房など、良い仕事場の集まりになつて行かないといけない。また、中国人が家族でやっている小さな料理屋が裏側にあるとか、ふくらみを持ったトアロードであつて欲しいですね。お金持ちがショッピングを楽しむだけの町じゃなくて日中活気のある町になって欲しい。そういう背景があつて本当に良いデザインが出来るわけですからね。

清水 今さら変な町はつくれないということですね。

水谷 家賃が高くてもぜひあそこを店を開きたいという町になって欲しいですね。今はトアロードのイメージが稀薄になっています。加藤 先ほど役所の話が出たのですが、実は市としては地元の方々が結束をしてこういう風にして欲しいといわれることに対して出来る範囲で協力することしか出来ないということ市の方から聞いて来たわけですね。

またトアロードでは昔からの店が多く、商売の性格もハッキリし



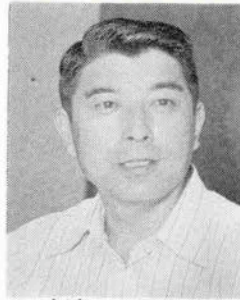
蛭川 松市さん

ていて、二代、三代にわたって発展している。だから、新しく店を開くときにも何か特徴のある方に來ていただく。それによって先生のおっしゃったふくらみが出て欲しいと思います。



清水 俊夫さん

石阪 今まで人為的に町を変えて來たわけですね。色んな人の知恵で出來たのに私は何故か抵抗感があるんですね。それは料理し過ぎて匂いが消えているからです。今のトアロードはその匂いが残っている町ですね。あそこを人が歩い



飯島 明さん

ている情景は僕らが思っている神戸の情景にやや近い。整備されていない匂いがあるからです。だから、そういう匂いを残して整備して行く。あわてて演出過剰にならなくても良いのじゃないかという気もして來るんですね。

そこで一番手をつけやすいのは道路周辺。それを今までなかった素材、たとえば、僕の嗜好からしたら御影石の道をつくってみる。これはローマやパリでも多い。

飯島 トアロードは南から北へ歩けば山が見える。山が見える商店街なんて余りありませんね。

狩谷 青空の下で買物物が出来るなんて自然で一番良いですよ。

清水 そういう自然があるのだから自然の石を使うのは良いですね。

水谷 神戸では御影石を使うということは大事ですね。さっきもデザインの本をいったのですが神戸の悪いところは借り物が多過ぎるんですね。そういう意味で石を使うことをつめて考える必要がある。それと、町をつくるのはやっぱり経済力ですね。格好だけではダメですよ。経済力とデザインの質を本気で考えて取り組まないと良い加減なものになる。だから役所に頼ってはダメなわけです。たとえば、車道部分は御影石を敷く。これは行政の方にも話をして協力し

て貰う。石を敷くにしても小豆島から職人さん共々持って來るなど色んな方法があるわけですね。歩道はレンガでもいいわけですね。

加藤 五、六年前から坂を利用して側溝に水を流そうという考えがあるのですが、水を利用することもあるのが、今の御影石のようにどう具体的に使うか今後も考えてみたい。

辻井 トアロードでは独特の商店街を形成するという事です。

蛭川 誰が行っても安心して買物の出来る町、それと、歩いていて気持ちの良い町、この二点から町づくりをやって行きたいですね。

飯島 トアロードに來て下さるお客さまが楽しんで買物が出来る。そういう町に行きたいです。

狩谷 先ほどから舗装の話が出ていますが、私としては外人倶楽部まで一度にやりたいですね。

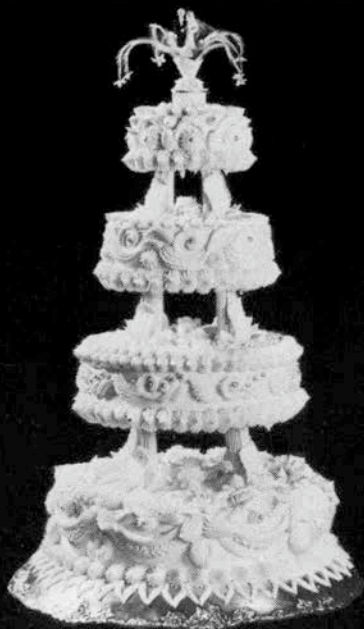
清水 それと街路樹ですが、歩道が狭いので大型車が通ると枝が折れたりします。大型車だけでも規制して欲しいですね。

水谷 町づくりに対する市や商工会議所の動きは積極的に受け取って行かないといけないけれど、まづ地元としての町のあり方、あるべきイメージをかなりつめて行かないといけない。ムードに流されてはいけないですね。

——今日はどうもありがとうございました

(神戸国際ホテルにて)

純白無垢



ドイツ菓子 *Fachrein's*

ユーハイム

本	店	三宮生田神社前	TEL (331) 1694
三	宮	店三宮大丸前	TEL (331) 2101
さん	ち	店三宮地下街スウィーツタウン内	TEL (391) 3539
西	ド	店イッソ フランクフルトゲートハウス内	TEL (0611) 280262

fresh!

フレッシュな製品をつくりお届けするのが私達の役目です



取扱品目

牛	乳	ソフトミックス
生	ク	リ
ク	リ	ーム
ケーキ	用	クリーム
各種	アイス	クリーム

株式会社

六甲牧場

神戸市灘区篠原南町6丁目1-25 ☎神戸078(801)6000(代表)